

KLLP ミニ講演
**大阪大谷大学人間社会学科
の地域連携とその変遷**

大阪大谷大学人間社会学科
学科長・教授 岡島 克樹

目 次

大学・地域連携史

本学科における地域連携のこれまで

本学科における地域連携のこれから

目 次

大学・地域連携史

本学科における地域連携のこれまで

本学科における地域連携のこれから

大学・地域連携史

大学による「地域連携」に関する方針や取組の歴史を概観すると3～4期に分けられる。

1990年代以前 前史

社会のために（for）大学がその知見を広く社会に「与える」という「社会貢献」の時期。

2000年代～ 黎明期

日本社会が下り坂に入ってから一定の時間が経過し、地域の課題も顕在化するとともに、大学教育のユニバーサル化のなかで、大学の「社会貢献」機能が正式化・主流化してくるとともに、一部の大学で科目化が開始される時期。この時期の取組のなかには地域とともに（with）という思考も見える。

大学・地域連携史

2010年代～ 普及期

政府政策としても、「CoC」構想が出てくるなど、「地域連携」に向けた、より具体的な動きが書き込まれはじめ、学生がキャンパス外に出て地域で活動することを科目化・単位化する傾向がより一般化する時期。

2020年代～ 質的拡充期？

やっていけばいいという時期は過ぎ、学びの質をどう捉え、どう充実させていくのかを検討する必要性が認識される時期。また、連携が地域に与える効果をどう把握し、どう最大化していくのかを探究する時期。

目次

大学・地域連携史

本学科における地域連携のこれまで

本学科における地域連携のこれから

本学科における地域連携のこれまで

本学科は「大学・地域連携史」とおおむねかぶる形で進行

1990年代以前 前史

大学がもっている知見等を「公開講座」や審議会・委員会への委員派遣といった、極めて限定的なスコープで考え実施していた時期。

2000年代～ 黎明期

2000年度コミュニティ関係学科，2005年度人間社会学科が設置され，そこでは，「コミュニティ研究演習」（その後「社会研究実習」に名称変更）が開講されており，また「外部講師制度」もあって，正式な大学・地域連携が開始。また，正課外でも，「南河内のつどい」や地域のイベントに関与しはじめた時期。

本学科における地域連携のこれまで

2010年代～ 普及期

「社会研究実習」以外にも，「地域社会体験実習（ボランティアセンター）」や「地域社会体験実習（市役所）」，さらには「地域社会体験実習（長期）」などが開講され，科目設置も多様化・階層化。また，専門実習科目との連携も踏まえらるようになった時期。

2020年代～ 質的拡充期？

地域連携センターの設置やKLLPに象徴されるように，大学全体として地域連携に取り組むようになっており，これを契機として，本学科内でもさらに地域連携を活発化させるよう動いている。また，学びの質の確保，とりわけ「主体性の醸成」という観点から学生にどのようなインパクトを残しているのかを検討するための調査プロジェクトに参画している。

目次

大学・地域連携史

本学科における地域連携のこれまで

本学科における地域連携のこれから

本学科における地域連携のこれから

学びの質の確保

学生によるリフレクションをより幅広く、一定の深さを持って行なうために必要な教員指導力の開発が必要である。そのために、関連する理論に関する知識やスキルを開発するための研修を行なう。

地域に与えるインパクトの検討

大学の地域連携が地域や受入団体にどのようなインパクトをもたらしているのか、「地域社会体験実習（ボランティアセンター）」では毎年12月に成果報告会を行なって学生の学びについて共有するとともに、受入先への影響を尋ねているが、より系統的に、また、住民参加を得て、検討する必要がある。